

やすらぎ



「歎異抄」(第三十七回)

標 暁 講述

をひらいたのだというようなことを云うのは間違いである。

「歎異抄」第十五章
一 煩惱具足の身をもって、すでにさとりをひらくということ。この条、もつてのほかのことにそうろう。即身成仏は真言秘教の本意、三密行業の証果なり。六根清浄はまた法華一乗の所説、四安樂の行の感徳なり。これみな難行上根のつとめ、観念成就のさとりなり。来生の開覚は他力浄土の宗旨、信心決定の道なるがゆえなり。これまた易行下根のつとめ、不簡善悪の法なり。

(真宗聖典六三六頁)

煩惱を断滅することを前提にしてさとりをひらくというのは聖道門の仏教であるが、煩惱を断ずることができない我々普通の人間が信心をいただいたからといって、私はさとり

即身成仏とは、我々がこの身体のある間にさとりをひらくといわれる真言宗の教えであり、秘教や密教とは秘密ということであるが、修行をしたことのない我々普通の人間、凡夫には全く何のことなのかわからない。次に、六根清浄という天台の教えがでてくる。六根は人間の能力を有する器官、その感覚器官が純粹になる。四安樂の行は、法華經安樂行品に説かれる、身・口・意の三業についての過ちはなれることと、衆生を導くための誓いをたてることとの四種をいい、この行の結果が六根清浄であると云われる。

我々は、自我のころ、煩惱でもって対象を見たり、聞いたり、認識するという不純粹な暮らしをしているので、六根不清浄である。鰻のか

光照寺寺報

発行所
真宗大谷派 弘興山
宗教法人光照寺
〒331-0821
さいたま市北区別所町102-2
電話：048-651-2781(代)
FAX：048-651-2753
E-mail
yasuragi@beige.ocn.ne.jp
ホームページ
http://www8.ocn.ne.jp/~koshoji
発行人 池田孝郎

ば焼きの匂いを嗅ぐと、ああ食べたいなあ、という心がおこるわけであるが、その反対が六根清浄だと理解すればよい。

見るもの聞くもの全てが、真如のはたらき、真実の道理のはたらきだという具合に受け止めることができるといえるという、そういうさとりが六根清浄と云われる。

天台宗は、妙法蓮華經を依り処とする法華經の教えで、他の教えはこの法華に我々を帰入させるための方便の教えであり、真実の教えは法華經一つなのだということを、ここでは法華一乗と表されている。

職業生活、家庭生活をしている人間にとって、即身成仏、六根清浄というものは到底得ることはできない。これは出家の難行であり、仏教の教えをいたたく素質能力の優れたものだけが成し得ることなのだというの

が、真言、法華の上で云われるさとりということになる。

浄土教の根本意義は、本願をただひとつの依り処として救われることである。我々が生きている間に、佛法を徹底して、信心を決定した人がいのち終わろうとするその時に、さとりをひらくというのが、これが他力浄土の宗旨であり、在家の人間にも行することができる。

仏の本願は、よしあしを分け隔てしておられない。我々凡夫はすべて分け隔てをする。分け隔てするのも煩惱、分け隔てされて情けなく思うのも煩惱であると知る。

仏の本願は、善人だ、悪人だと決して分け隔てはされない、不簡善悪の法なのである。

〔当寺〕法話抜粋要約、文責副住職 釈徹照 次回へ続く



修正会住職法話

● 春季彼岸会法要 三月二十日(水)午後三十分 厳修
 ● 旅行記
 ● 子供会報告
 ● 大病克服者感想
 ● 詳細は三頁
 ● 詳細は四頁
 ● 詳細は十頁
 ● 詳細は十頁



昨年読んだ本に感動したことを今回は書いてみたいと思います。その本は「今を生きる親鸞」(安富歩・本多雅人対談・発行所(株)樹心社)。二〇一二年五月十日、親鸞聖人七百五十回御遠忌讃仰講演会が京都の東本願寺で開催され、東京大学の東洋文化研究所教授の安富歩先生と東京教区の蓮光寺住職の本多雅人師との対談が一冊の本として出版され、その内容の中に一文に感動したことをご紹介したいと思います(筆を執りました)。

それは一四四頁の「カロン、ホイヘンス、スピノザ、親鸞」の中に、「オランダの商人で、フラン

ソワ・カロンという人がいまして、この人は一六四〇年から約二十五年間くらい日本の平戸に住んでいた。その人とスピノザとが、ホイヘンス家のサロンに出入りしていたのです。スピノザが、カロン經由で親鸞の影響を受けた可能性は十分にありまます。」の一文に出会い、「我が意を得たり。」と思う程の衝撃を受けました。

それは何故かと云えば、明治以後、「和魂洋才」と銘打って我武者羅に西洋の学問、思想、哲学、技術を先進として吸収し、欧米先進国に追いつけ追い越せと突き進み、敗戦後は、経済戦争でアメリカに追いつけ追い越せと歩んで来た近代・現代の日本の姿があり、日本の良き思想も教えも古い上着を脱ぎ捨てるが如く顧みることが少なく、欧米の先進国の方へしか頭も眼もすべてが向いている、今日の日本の現状に憂えている私にここに在るからでありました。

安富先生は、そのスピノザの思想は、カント、シェリング、ヘーゲル、マルクス、ニーチェ、ヴァイトゲンシュタイン、ハイデガーといったドイツ圏の偉大な哲学は、ことごとく、スピノザの思想から強烈なインスピレーションをうけていますといわれ、さらに、フロイトの精神分析学とか、エー

リッヒ・フロムといった心理学者、あるいはドゥルーズといったフランスの有名な哲学者にも影響を与えていて、哲学の世界ではここ十年くらい、スピノザ・ブームというか、わりと流行っているのとことです。

私が普段云っている言葉に、「今日の社会はキリスト教で全て動いている。キリスト教を理解しなければ、今日の社会は理解出来ない。」に符合するかの様に、安富先生は、「現代の学問というものは、実は宗教なのです。どういう宗教かと言うとキリスト教です。社会科学などは特にそうです。選択、自由、責任、共同体、契約、コミュニケーション、計画といった概念抜きには、現代の社会科学というのは議論不可能になっていますが、これらはすべてバイブルにあるキーワードです。そうしたバイブルの言葉から神の概念を除いて、そのまま使っているのが今の学問です。キリスト教でありふりをしていますが、実のところ神抜きキリスト教なのです。」

誠に我が意を得たる思いです。このスピノザの書がキリスト教側からは異端の書であり、禁書になつていたとは当然とも思います。近代の西洋思想に親鸞聖人の教えが影響していたとは驚きでした。

真の依り処

人は幸せになるために生まれてきたはずで。誰が選んだのでもありません。一人一人が阿弥陀様に尊いのちを頂きこの世に生まれて来たのです。そして如来様は幸せになるのですよと申され、どうかわかつてほしいと願われています。如来様から願われていることも知らず己れが自分勝手な思いにふりまわされて来た私です。どうしようもない私に弥陀は善知識に御縁をただかして下さいました。如来様は声となってこの仏道をしつかり歩みなさい、そして深い深い思いの念佛を申すのですよと言われたような気がしました。それもこれも皆他力ですもの。如来様、愚かなこの身を頂きましたことをありがたく大切に、罪深きこの尊い身を懺悔し、この教えを聴聞させて頂きます事に感謝申し上げます。合掌

岡田ノリ子

音の鈴

念仏ということによって、どうにもならない煩惱の生活が、そのまま菩提の道となる

金子 大榮
(「親鸞の世界」)

お彼岸



往生という死とイコールで考えてしまいがちですが、そうではなくて、浄土に往生生まれるということで、本願に目覚めて生きることであると教わります。「浄土へ往生するということは、ここで生きられるようになったということです。」と専修学院長であつた故竹中智秀先生はおっしゃいました。

消してしまいたい過去、不安ばかりの未来と向き合う「ここ」(今)が受け止められ

るかだろうか。どのようなことがあつても「ここ」を生きたられると領かせていただく人生を歩みたいものです。如来の本願に尋ねて参りましょう。

日本特有のお彼岸週間は亡き人に憶いをはせて「いのち」の道理を深く尋ねる機会です。

亡き人を偲びつつ一緒に
お念仏しましょう。
ご家族共々お参り下さい。
副住職(釈徹照)

春季 彼岸会法要

- ・3月20日(水) 春分の日
- ・午後1時30分
～3時30分まで
(1時受付)
- ・光照寺本堂にて
- ・勤行・法話

※準備の都合上、出席人数をご連絡下さい。預骨されている方は率先してお参り下さい。ご参詣をお待ちしております。

彼岸参り

- ・3月17日(日)
～23日(土)の期間
(但し20日は除く)

※ご希望の日にちをお知らせ下さい。時間につきましてはこちらで調整させて頂きます。ご自宅か当寺のいずれかで読経いたします。

ひとくち 歎異抄

羅漢：過去・現在・未来に普遍なる道理は如何に。
「よろずのこと、みなもつて、そらごととわごと、まことあることなきに、ただ念仏のみぞまことにておわします。」後序



過去・未来・現在に普遍に通じる道理はただ念仏のみです。

川越喜多院の五百羅漢



親鸞聖人銅像建立除幕式



報恩講 佐藤さん感話



報恩講 清水さん感話

光照寺、旅行記

平成二十四年九月十五日～十六日

「光照寺旅行 箱根、親鸞聖人お別れの石、芦ノ湖遊覧、仙石原湿生花園へ」の旅で、参加者の方々の感想をお寄せいただきました。皆様にこの紙面をお借りして御礼申し上げます。

(編集長 副住職池田孝三郎)

「箱根」に聖人を憶う

住職 池田 孝郎

この度は親鸞聖人のご旧跡として、聖人六十二才、関東の地に於いて二十年間のご化導の後、京都



へ帰られる途中、性信房と蓮位房は関東に残り、教えを守り伝える

様託され、涙の中に別れたとする「お別れの石」を訪ねた。その時の聖人の心中は如何ばかりでありましたでしょうか。憶いは越後流罪と重ねてそのご苦勞を憶うことでもあります。箱根神社との由来もさることながら、学徒出陣で戦死した追悼の碑として立つ聖人の銅像に、「世の中安穩なれ、仏法弘



萬福寺ご住職のお話

まれ」と願われたお心を憶念します。

萬福寺の

ご住職に、

阿弥陀如来像、聖人の御影の木像の由来を詳しく拝聴致し感銘を深く致しました。幹事様の配慮に感謝しつつ、参加者の皆々様との共感、感動に感謝申し上げます。

合掌

箱根の旅

坊守 池田 邦子

平成二十四年九月十五日～十六日、午前八時、一泊二日寺族、門徒さん達と総勢二十五名の方々と



箱根萬福寺にて

のバス旅行、出発進行!

途中、案の定渋滞にぶつかってしまつた。箱根の関所の門の前にて記念撮影し、昼食後萬福寺さんへ、小笠原聡住職の丁寧な阿弥陀如来像の由来、親鸞聖人像につい



て等のご説明と、資料七点もご用意下さっていて、境内の聖人銅像をお参りさせて頂きました。
 聖人お別れの石から、箱根神社参詣へと、出発時の渋滞を忘れる程(?)スムーズに箱根湯の花温泉ホテル到着となりました。副住職と四月に結婚し新妻となった恵



美さんもこの度光照寺旅行デビューをし、皆様と打ち解けた様子で安心しました。ホテル大広間での夕食、朝食にも堪能しました。翌日、芦ノ湖観光船バイキングに乗船、湖面のキラキラと眩い程に光の反射が、私の全身に浴びせられ、両手を大きくのびし心呼吸し、タイタニックの映画のワンシーン(船首には立ちませんが)を思い、心地良い気分になりました。彫刻の森美術館の散策(一寸雨に打たれたが)感銘しました。小田原鈴廣土産店、それぞれ良い思い出として心に残りました。楽しい旅を



彫刻の森にて

皆様と過ごせた事に感謝申し上げます。合掌

箱根旅行

池田 孝次郎

小生は例年お寺の旅行では留守番役ですが、昨年の東北旅行に続いて今年も参加できましたこと有り難く感じております。前日十四日に教区の教学館研修旅行でインドネシアから帰国したばかりでした為、体力的な面が若干不安でしたが、何とか二人の子供たち共々無事に参加出来ましてほっとした次第です。

芦ノ湖の遊覧船では、子供たちがデッキに上がって最初は少し恐かった様子でしたが、だんだんと目を輝かせて、



はしゃいで楽しんでいる姿が印象的でした。

何かと子供たちがご迷惑をかけたましたが、参加者の皆さんより温かく接して頂きこの場をお借りして感謝申し上げます。

光照寺の箱根旅行

大塚 誠 一

今回は、箱根への旅行というところで、親鸞聖人にどんなゆかりがあるのだろうと特に興味深い思いで、家族四人で参加させて頂きました。

まず萬福寺で、ご住職から詳しく説明を丁寧にしていただき、お別れの石も見学して、親鸞聖人の

ゆかりの深さを感じました。箱根神社に親鸞聖人像が建てられたのも当然でありましょう。

二日目の芦ノ湖観光船でのひとときや彫刻の森美術館の見学も楽しんでいただきました。

箱根は、温泉地として有名であり、何度か訪れたことがありましたが、今回の光照寺の旅行で、親鸞聖人のゆかりの深さを感じて、イメージが変わりました。また訪れてみたいと思いました。

光照寺と旅行幹事の方々には、たいへんお世話になりました。楽しい一泊二日の旅行でした。ありがとうございます。



親鸞聖人お別れの石にて

光照寺の箱根旅行

大塚 陽子

今回は、親鸞聖人のゆかりの地である「箱根」で、私は箱根には

観光で行ったことはあるのですが、ゆかりの地めぐりは初めてだったので、楽しみにしていました。

初日は、バスで行ったのですが、道路が渋滞していたので、箱根の関所や資料館は外観だけ見て、昼食後、萬福寺やお別れの石、そして箱根

神社をお参りさせていただき、その後は宿泊先のホテルに一泊しました。

萬福寺やお別れの石や箱根神社は親鸞聖人のゆかりのある所で、萬福寺ではご住職の丁寧な説明と、箱根権現から萬福寺に移された本尊と親鸞聖人自刻の御真影の複製を見せていただきました。お別れの石は、親鸞聖人が関東から京都へ帰る途中、弟子の性信房

に関東に留まるように諭し、お別れをした場所、そこを見学し、箱根神社では、親鸞聖人像を拝ませてもらいました。

二日目は、芦の湖の観光船に乗って桃源台で降り、そこからバスで仙石原のスキが原を見学し、昼食後、彫刻の森美術館を見学しました。その後は、お土産屋さんの小田原鈴廣風祭店へ寄り、かまぼこなどのお土産を買って帰りました。

今度の旅行も家族で参加でき、有意義な旅行をさせていただきました。

幹事さんや光照寺には大変お世話になり、ありがとうございます。

光照寺箱根旅行

大塚 雄介

今回は、久しぶりに参加させていただきました。親鸞聖人ゆかりの地を訪ねられて良かったです。楽しかったです。





幹事さんそして光照寺には大変お世話になりました。ありがとうございます。ございました。

旅行感想

岡田 ノリ子

過去に味わったことのない喜びを得、不思議に思う人達が多く救済される開きをされました。当時も今も念佛一つで助かる絶対他力の信仰、南無阿弥陀仏。そしてまだまだ自分にはやる事がある為と



小刀称総代の乾杯

最愛のご家族を残し一人都へ上ることを決められ、あのみかえり橋で恵信尼さんと親鸞様は送る悲し



み行く辛さの別れをされ、お供と都へと出発されました。途中ままならない険しい山の坂道で少し平らな処で背中の荷を下ろし一休みひとやすみされた筈わづの平に行きました。私はアアここかとご苦労をしのびました。親鸞様は付き添って来た二十四輩の第一番目性信房に背中に背負う笈あしを譲り関東での布教を託された処です。
そのお氣持が深く尊く伝えねばやまない心情をいただきました。

久しぶりの箱根

川澄 英明

登山と植物が大好きな私は、かつて金時山や明神ヶ岳に何度か登り、仙石原の湿生花園を度々訪れていました。

ところが、初日の観光先は、萬福寺、箱根関所、親鸞聖人お別れの石、箱根神社、二日目の芦ノ湖遊覧船と、どれも初体験で楽しい旅が出来ました。萬福寺のご住職小笠原さんに、訪問の予約を電話





でお願いしたのは、二ヶ月も前のことでした。小笠原さんは十分な資料を準備し、丁寧に対応してく



幹事長 川澄さん

ださいました。とても嬉しく思いました。
親鸞聖人のお別れの石は狭い旧東海道の傍らにありました。緑の木立の中、大きな石の前に立ち、その時の情景を思い浮かべながらご住職と坊守さんに写真を撮らせていただきました。いつも写真を撮る側には旅行中の写真はとてもし少ないのですが、この写真は良い記念になりました。
帰り道、箱根の森の中に、木肌



がツルツルで、真っ赤な幹がよく目立つ大木が何本もありました。帰ってからすぐ図鑑を調べました。



海賊船にて



これはナツツバキ(娑羅の樹)だったようです。娑羅と言えばお釈迦様の涅槃の時に四方にあった樹ですね。
幹事の誤算・印象 視点をかえて
淡海雅子
高速道路の大渋滞に巻き込まれ、光照寺の旅行はスタートした。9月連休の初日、すっかり、そんなことを忘れていた幹事は時間に到着し、スケジュールをカバーできるかそればかりを心配していた。



それに引きかえ車内は早朝から盛り上がり、その笑い声から妙な安心感をいただいていた。一部旅程の変更があつたが、天候にも恵ま



箱根神社と富士



れ芦ノ湖から富士山を仰ぐこともでき、楽しい旅行だった。彫刻の森、ピカソはどこまでもピカソであり、何を象徴している



のか意味を求めるのに感覚の乏しさを感じたが、意味を求めることが無意味なのかもしれない。「箱根の山は天下の嶮……」懐かしい歌声を聴きながら親鸞聖人が関東から京に帰る時、門弟と別れをしたという「お別れ石の碑」を訪ねた。聖人がどのような思いで関東を後にしたのか。また別れを見送る性信房の思いはいかばかりだったか。その後、関東で起きる問題をお互いに予期していたのであろうかと思いが巡る。当時の街道が今の道と同じとは思われないが、山越えの険しさは今

以上であつただろう。聖人のご苦労を考えながら我々一行を乗せたバスは舗装された道を見事なハンドルさばきで小田原へと下つた。何度も訪ねている箱根であつたが視点を變えて見ると新しい驚き



芦の湖を背に

と思いを味わうことができた皆様、ありがとうございます。合掌。

毎回旅行で思うこと

三輪 民子

光照寺は現任職が興された一代目の閨法道場を開かれて、わずか二十二年目の若いお寺です。『歎異抄』に遇われ親鸞聖人の教えを求め続けられ、「浄土真宗まこと」と、素晴らしい師との出遇いを大切にされ、家族の理解と協力、特に坊守の支えで、大変な努力と信念をもって興されたお寺です。住職と坊守のお寺に縁ある人達と無理無くゆつくり浄土真宗を学び、楽しみ乍ら親睦をはかり、よりよいお寺にしたい心の現れが旅行だと思えます。毎回大変なお寺の協力と、参加者の要望を聞きながらの幹事さんの努力で、参加費よりかなり贅沢でゆとりのある宿と乗り物で楽しいです。一人でも多く参加されるといいなあ！

子供会「ポニークラブ」の報告

平成二十四年十二月二十二日(土)の子供会「ポニークラブ」は「子ども報恩講」と銘打って、祐一君、真由ちゃん、彩乃ちゃん、結衣ちゃん、達哉ちゃん、光瑠ちゃん、達瑠ちゃんにそれぞれの調声を受け持ってもらい、りっぱに正信傷があげられました。



次回は、平成二十五年四月一日(月)お釈迦様のご誕生を祝って「花まつり」を行います。皆様のご参加をお待ちしています。参加ご希望の方はお寺にご連絡下さい。(坊守 池田 邦子記)

大塚陽子さんの法話は、報恩講の由来や、お釈迦様はブツブツ文句を言わない、(笑) 仏様は皆をほっとけない、好物はホットケーキだと、楽しいお話を聞かせて頂きました。



子ども報恩講 集合写真



楽しかった真宗カルタ



紙芝居



勤行の様子

大病克服者感想

修正会にご参加頂いた折に新年の感想で三人の方が大病克服された感想をお話され、感動につつまれたので是非寺報に掲載したい旨を打診しましたところ快く原稿をお寄せ頂きました。皆様にこの紙面をお借りして御礼申し上げます。

(編集長 副住職池田孝二郎)

束の間の念仏

杉本常義

三年前に胃カメラ検査で手術した時の体験です。医師は手術が最適と施行を勧める。告知は「高齢だが可能」「手術すれば五年は生きられる。」「しなければ六ヶ月中に出血。手立てなし。失血して死亡。」だった。生と死との当面である。

私は九十四歳だ。友人は皆故人である。ショックは軽い。死とは？人生とは？他、「回想」と「妄想」が混迷するばかりで眠れず。夜明け頃になり悩む理由が「損だ」「得だ」「自分本位」の考えが心にあるからと知る。煩惱を離れた自分を見詰める。治れば医師の自信にな

る。多くの人が助けられる。私の手術が役に立つのだと思考し、「手術」と決めた。迷いが消え、心が浮いた時、思わず南無阿弥陀佛と叫び、スーと深い眠りに入った。看護師の朝の声に目覚める。爽快だ。疲れを知らず。回想する。煩惱に塗れ生きて来た。信仰心も浅い。死と直面して煩惱の存在を知り。「悟り」だ。助けられた。弥陀如来念佛往生誓願のところに瞬時だが触れた有り難さの叫びだったと信じたい。

手術も体調も順調に運び快復して退院しました。元気になりました。煩惱の社会では、煩惱無くして生きられないかも知れない。信仰は心の支えである。失ってはならないと勤行に勤めている日々です。

余生を御仏に託し

河野武士

修正会に参加し有り難い御法話を頂き感謝申し上げます。以下私事ですが体験したままをお話させていただきます。昨年五月、糖尿病から腎不全に陥り肺と心臓に水が溜

まり救急治療を受け、手首から心臓迄のカテーテル造影検査の結果、血管に異常なし、その後頸静脈を切開し透析を行う手術を受けました。どの位の時が流れたのでしょうか、不思議なことに遭遇したので、賽の河原「らしき場所に立ち三途の川を渡ろうとしましたが迎える花も手招きする者もなく荒涼とした無彩色の景色が広がりました。これはいけないと咄嗟に引き返す。そのまま寝入ってしまった。

そのまま寝入ってしまった。現実目覚めるとそこは紛れもなく現実の世界。嗚呼！命拾いです。早世した一人息子にまだまだ生きて下さいと励まされたのです。そして療養では家内や娘にたいへん世話になり改めて御仏の御慈悲と親子の絆を痛感させられました。生かされた余生を御仏の教えのもと、真摯な態度で歩んで行きたいものと深く心に念じた次第でございます。合掌

大動脈瘤の手術を終えて

平山正三

昨年十月末に大動脈瘤の除去手術をし、現在は多少微熱があるものの、ほぼ通常の生活に戻りました。一昨年、人間ドックで胸部X

線検査で大動脈拡張の疑いがある。ので精密検査をするようにとの所見があり、CT検査の結果、上行大動脈の拡大五八mm(通常二十〜三十mm)との診断で、数ヶ月以内に手術を勧められた。この部位は何の症状もないのが特徴で、症状が出るのは破裂した時であるとのことでした。

手術は胸骨を切り開き、心臓・肺機能を停止し人工心肺装置に置き、瘤の部分を切除し人工血管に換置する方法です。

朝九時に手術室に入りベッドに横になり「点滴を始めますね」と言われたことは記憶にあるが、その後は意識がなく、翌日午前一時に医師に声をかけられ意識が戻り「ああ、私は生きているのだ。有り難い」と神仏・医師・家族に自然と感謝をした次第です。頂いた命、これから感謝の気持ちをお忘れず大事にして生きようと思えます。

光照寺の聞法会に参加されている方、護持会役員の方々から入院前に激励の言葉を頂いたことも励みになりました。この誌上をお借りしてお礼を申し上げます。

最後に皆さん、一年に一回は人間ドックをお勧めいたします。

お知らせ

寺務所より

◆法要のご案内

●春季彼岸会法要 三月二十日(水)、午後一時三十分より厳修。

◆光照寺護持会

会員の方は護持会費の納入をお願い致します。又、随時新会員受付中、別紙案内をご覧ください。総会は六月二十日。

◆聞法会のお知らせ

●親鸞聖人のみ教えに聞く会 毎月開催。午後一時半～四時半まで。講師は樸暁先生。和讃を学んでいます。日程は寺にお尋ね下さい。

●大経の会

二月十七日、三月三十日、四月十五日、五月十二日、午前十時～午後三時まで。細川巖著正信偈讚仰(四)を学んでいます。お弁当持参して下さい。

●我聞の会

二月二十日、三月十一日、四月二十六日、五月二日、午後二時～四時まで。真宗の簡要を学んでいます。講師は住職『真宗の簡要(住職著)を学んでいます。』

●微風学舎

毎月開催。午後七時～九時まで。講師は副住職『顕浄土』の教学。親鸞における現生不退の視座(副住職著)を学んでいます。サブテキスト「今日のこと」は日程は寺にお尋ね下さい。

◆さいたま親鸞講座

午後二時～四時。会場は大宮川鍋ビル。四月十三日、六月八日。

◆聲明サークル「響き」第三期が

スタートしました。お経を習いたい方はお寺へ問い合わせください。講師副住職。

◆お願い
ご自宅で法事の際は駐車場をご用意下さい。
住所・電話番号変更の際は必ずご連絡下さい。

俳句・川柳

吉澤 光昭

綿虫に教え請いたき処世かな
もう厭くもやはり来たりし師走かな
満ち足りた一日オリオン見上げけり

西木 順子

アオキの葉ゆらす冬木を洩る光
杉落葉踏むや弾力ひとつ旅
ポケットの団栗だけがうつつなり

河野 日出子

ひっそりと音無き里の秋時雨
唐松の色づきすぎで影淋し
錦絵の里山に入る紅葉かな
病葉を水に浮かべて冬木立
燈々と縹びようたりや星月夜
深々と凍てつく夜や靴の音
懐しき子猫と叔母の日向ぼこ
冬風の春の予感や柔き陽の
寒椿においけるかな雅びなる

望郷歌 江部 鴨村

望郷歌
聴されて薬湯となる修正会
七草粥万葉の香を禊とす
散り際の最もゆれて梅匂ふ
塩鮎大福よく売れてをり春の雪
花辛夷万開にして閑かなり
草笛のやがて落ちて着く望郷歌
指先きの水遊ばせて芦を摘む

山田 恒

残り火に少し継ぎ足す年の暮れ
まだ生きる積もりの五年日記買う
火の玉でヤルズヤルズのヤル権化
なるほどなヤッタヤッタが目に見える
今時のやれば出来るの教祖かな

釈 義深

短歌(詩)

佐藤 セツ子

幼き日乗りて遊びし狛犬は社の柱
に古りて鎮もる
美しく塗り分けられしコンパイン
越の稲田に動き始める
四十年経たずぬれし学び舎の桜
の冬芽ツンと伸びおり
風のなき谷間の出で湯にひたりお
れば雪は空中にしばしとどまる
小食の吾の爲にと買いくれし小さ
き茶碗はふくろうの柄

河野 日出子

憶い出を口に出せぬは苦しかりあり
りし日の君夫の前には
吾れよりも亡き子思ほゆ夫なれば
素直になりて共に語らむ

佐々木 玄吾

朝晩の勤行できる幸せを今朝ひし
とひとと感ぜり
よるこびと感謝のことば口にして
ベッドの上の九十三歳
いかにせんあなたの本心見えると
か願患の炎さかまく我には

篠原 潤子

ダンボールに毛布をしていて寝起き
する母の看病松前病院
アーおしい氷ひとかけ口ふくむ
転移ひるがりやせれた母言う
八十八父の形見の携帯の番号違
いを泣きながらみる
出てけーッ怒鳴って三日後夫腰痛
腰のベルトを欲しがりねだる
あーだこーだ昔のことをほじくつ
て吐きだす我は怪獣の顔

赤秀 品枝

無理くくモオ無理無理無理もお
ムリだ志に背を向けしやべりつづける
大学で心理学聴き二年すぎうまく
ゆかない夫との関係
六年日年賀のバイト終えてみりあ
ヒザに水あり正座が出来ぬ



梵鐘

花岡 要 画

親鸞聖人の銅像の除幕式が十月十日に勤修された。身丈八尺の聖人は竹の杖を持ち、蓑笠をまとい、きりつとした目鼻立ちで参集を見ておられた。銅像の背面には「仏法弘まれかし 念仏よ興れ 南無阿弥陀仏」とご住職様の願いが刻まれている。親鸞聖人がここにお立ちになつて居ることは、どういう意味があるのだろうか。偶像としての崇拜や妄信の対象として居られるのではない。聖人は本当に出会わなくてはならないものに、出会い難い私に「わかつてくれよ」と布教のご苦労の姿で語りかけてくださっている。すべての人々を一人残らず救いとるという阿弥陀如来の本願の光が聖人のお姿の背後に感じられるか、私が問われていくことが興り、それが相続されていくことは難中の難である。それは私の身が本願の教えを尋ね聞き続けることを課題としている。強い願いを感じお姿を押し続けたい。
南無阿弥陀仏。
釈尼雅亮